カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社インテックス

聖ヨセフの特別年

2020年12月8日、聖ヨセフが「カトリック教会の保護者」として宣言され150年を迎えた。教皇フランシスコは聖ヨセフに関する使徒的書簡を発表。同時に「聖ヨセフの特別年」が開幕した。特別年はこの日から2021年12月8日までの1年間。（バチカン・ニュース）

2021年 年頭教書

「すべてのいのちを守る教会」を目指して

大司教 ヨセフ 髙見 三明

年頭にあたり、皆様に新年のごあいさつを申し上げます。昨年も公私ともにご支援とご協力をいただき、まことにありがとうございました。今年も、中村倫明司教様共々、よろしくお願いいたします。

一昨年、わたしたちは、教皇様のご訪問に励まされて新たな一歩を踏み出そうとしました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、不安や心配の中、ミサや教会行事などへの参加は制約され、カトリックセンターの宿泊事業は閉鎖に追い込まれ、大浦天主堂の拝観者数は激減するなどしました。また教区会計上の重大な問題などにも皆が心を痛めました。

このような厳しい状況だからこそ、わたしたちは「すべてのいのちを守る教会」を目指していきたいと思います。

1. すべてのいのちに神の愛を見る

すべてのいのちは愛そのものである神から来ます。実際、愛によって天と地とそこにあるすべてのもの、すなわち天体、あらゆる動植物、特に人間は霊と肉を持つひとつのものとして、また神ご自身にかたどり似せて、男と女に創造されました。神は、大地を人間が住み耕し守る所として備え、太陽の光と水を与えてすべての生き物を養い、人間には労働によって自分のいのちを養うための作物、家畜や海の幸を豊かに恵み、生きる喜びを与えてくださいます（詩編65・10－14、104・1－4、10－30など参照）。神は、いのちを愛し、いのちといのちを支えるすべてのものをいとおしまれます（知恵の書11・26、詩編145・9）。この神の愛がすべてであり、わたしたちはその愛を知り、信じています。

2. すべての人が互いにいのちを守る

神は、愛によってすべてのいのちを造り守るだけでなく、同じ愛によってわたしたちを救い、守ってくださいます。神がまずわたしたちを愛してくださったのです（Ⅰヨハネ4・19）。この愛について、イエスは、多くの実を結ぶために死ぬ一粒の麦（ヨハネ12・24）、失われた一匹の羊を見つけ出すまで捜し回る羊飼い（ルカ15・4－7）、自分のいのちを羊のために与える羊飼い（ヨハネ10・11、15、17、18）、回心して戻ってきた放蕩息子を大喜びで無条件に迎える父親（ルカ15・11－32）などのたとえをもって教えられました。

そして、その愛を行いによって示してくださいました。御父から遣わされた独り子として、十字架の上でご自分のいのちをささげ、復活することによってわたしたちの罪を赦し、わたしたちを悪と罪と永遠の死から救い、神の子としてくださいました。これは神の愛の最高のわざです。

さらに主イエスは、聖霊によってわたしたちの心に神の愛を注ぎ、その愛を相互愛によって現わすよう諭されます。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネ15・12）こうして兄弟を愛する人は神を愛し、神を愛する人は兄弟を愛するのです（マタイ25・40、Ⅰヨハネ4・11、20－21参照）。

さて、このような愛の精神に生かされて初めて、すべての人が互いに、そしてすべてのいのちを守ることができます。(1)「すべての人」とは、性別、年齢、心身の健康状態、出自、職業、国、言語、文化、宗教などの違いを尊重しつつそれを超えていく人のことです。「善いサマリア人」はその模範です。(2)「互いにいのちを守る」ということは、お互いに、①まず相手の人間としての尊厳と基本的人権を尊重し、②偏見や差別、いじめ、あらゆる暴力など、危害を及ぼすものからいのちを守り、③さらに、貧困、飢え、難民生活などで苦しんでいる人々を助け支えるということです。

3. 教区代表者会議（シノドス）の提言と重ねて

第1回教区代表者会議（シノドス）の開催から6年になりますが、シノドスが目指した教会は「すべてのいのちを守る教会」と重なります。

(1) 参加する教会は、すべてのいのちを守ることを具体的に実践する教会です。疫病から互いのいのちを守るために、マスクをし、手指の消毒をすることも感染防止への参加です。地球環境を汚染と破壊から守るためにプラスチック製品の使用を控え、水などの資源を大切にすることも参加です。平和活動への参加も「すべてのいのちを守る」ことに通じます。

(2) 交わりの教会は、世界中のすべての人々が兄弟姉妹であるという真理に基づいて、各自が常に愛徳において向上する努力をし、また女性へのリスペクトと公正な評価などによって、男女が協力し合う教会です。また自分も罪びとであることを思い起こして、過ちを犯したほかの人を赦し受け入れる教会です。

(3) 宣教する教会は、わたしたちが「すべてのいのちを守る」姿勢と行動を示すことによって、いのちの福音を証しする教会です。わたしたちは、祈りを熱心にし、愛を説くだけでなく、日常生活が「すべてのいのちを守る」生活になっているかどうかを常に振り返る必要があると思います。わたしたちが皆互いを兄弟姉妹として愛し合う、つまり守り合うとき、福音の香りのする生き方（教皇フランシスコ）を世に示すことができるのではないでしょうか。

この一年を通して皆様方の上に主の祝福がありますよう祈ります。

教皇来崎1周年を記念して

ミサと大司教メッセージの動画配信

「王であるキリスト」の祭日に行われたミサ

教皇フランシスコが長崎を訪問されて1周年となったことを記念し、長崎教区は、昨年11月22日「王であるキリスト」の祭日に各小教区において教皇来崎1周年記念ミサを行うよう呼び掛けた。カテドラル浦上教会では、髙見三明大司教の主司式、中村倫明司教と6人の司祭団の共同司式により15時30分からミサが行われ、その様子の一部がインターネットを通じてライブ配信された。

また、教皇来崎からちょうど1周年を迎えた11月24日には、髙見大司教のメッセージ動画が教区ホームページで公開された。約1分半の動画は、平和への決意を新たにすることを願い、広く伝えるために日本語と英語の字幕付きでつくられた。大司教は、教皇の訪問を実りあるものにしようと、次の3つの取り組みについて挙げた。

「一つ目、教皇訪日のテーマだった『すべてのいのちを守るため』『これを私たちの生活の指針・目標にしてはいかがでしょうか？

二つ目、核兵器を捨てて世界平和を実現すること、これこそすべてのいのちを守ることになります。すべての人が互いに人間の尊厳と基本的人権を尊重し、信頼し合うことによって平和をつくる努力を続けてまいりましょう。

三つ目、地球はすべての人の共通の住まいです。この地球の環境を大切に守ると同時に、家族や友達はもちろん、世界中のすべての人たちを兄弟姉妹のように尊敬し支え合っていくように努めていきましょう」

大司教は最後に、「必要な助けを主にお願いし、また教皇様への感謝を込めて、そのご健康とお働きの上に主のお恵みを祈りましょう」と温かい表情で語っていた。

長崎大司教区

ライブ配信など　https://www.youtube.com/user/NagasakiCollegio
メッセージ動画など　https://www.youtube.com/user/nagasakicatholic

人事異動・任命

（　）内は前任地

◆韓国殉教福者聖職修道会〔11月29日付〕
カン・デフン師　香焼協力司祭・語学研修（ソウル）

ほしかげ

「一年の計は元旦にあり」と昔から言われています。大なり小なり、目標を立てることは、信仰生活を歩む上でも大いに役立つのではないでしょうか▲昨年は、新型コロナウイルス感染症が教会に大きな影響を与えました。教会の一時閉鎖、公開ミサ中止、他教会へのミサ参加不可、人数制限、社会的距離（ソーシャル・ディスタンス）、マスク着用、ネット配信、消毒…。当たり前と思われたことができなくなり、息苦しさを覚えながら信仰生活を送られたのと同時に、自分自身の信仰を見つめ直す機会になったのではないでしょうか。これも一つの試練といえるでしょう。「苦難は忍耐を生み、忍耐は試練に磨かれた徳を生み、その徳は希望を生み出すことを知っています」（ロマ5・3－4）▲今年も感染症の収束は見込めないかもしれません。だからといって悲観的になる必要もありません。過去の歴史の中で、教会はいろいろな試練に遭い、そして成長してきました。もちろん、成長には犠牲や変化が伴います。新しい生活様式による信仰生活。これも一つの変化です。変化を恐れてはなりません。生活様式が変化しても、信仰を生きることは変わりません。今もキリストは「恐れることはない」（マタ14・27）と励まし続けています▲新しい年を迎えた長崎教区の上に、神が愛と平和を与えてくださいますように。「あなた方の信仰と希望は、神にあるのです」（Ⅰペト1・21）　（武）

「…しかし 長崎の教会は死ぬことはありませんでした」　ヨハネ・パウロ2世（1981年）

わたしたちは何を目指すのか①

帯を締め直して

補佐司教　中村 倫明

お詫びと感謝

昨年はいろんなことがありました。そのためたくさんのご迷惑をおかけし、例年以上にお世話になりました。「ごめんなさい」そして「ありがとうございました」

そこで今年は「帯を締め直して始めたい」決意を固め、気持ちを引き締め、気合を入れ直すという意味で私たちはよく「帯を締め直して」という言葉を用います。同じものを長い間身にまとっていると、生地は傷み色は褪せ、ゴム紐は伸びきってしまいます。私たちの生活や信仰だって惰性になり、注意していないと、だらしなく緩んでしまうのです。

福音の中での帯締め

福音の中では、ルカだけがこの言葉を用います。「『腰に帯を締め』、ともし火をともしていなさい」（ルカ12・35）それは、主人がいつ自宅に戻って来られるのか分からないからです。そのために、家で待っている僕は気持ちを引き締め、気合を入れ、迎える準備を万全にしていくのです。

私たちも、いや失礼、この私こそ「帯を締め直して」今年もあらためて主のみ言葉を受け入れ直していかなければなりません。

辞書の中での締め直し

面白いことに、辞書を紐解くと辞書の中には「帯を締め直して」という言葉は出てきません。辞書に出てくるのは「褌（ふんどし）を締めてかかる」という言葉です。

「褌」という字は、「衣」偏に「軍」と書くように、戦闘服に由来するものだそうです。昔は布が高価であったことから、戦国時代では戦死者の身分を褌の有無で見分けていたのだそうです。

「ふんどし」という呼び方の由来は、その着用のために昔は両足を通したことから「踏み通し」と呼んだからとか、素材が、馬や犬を繋ぎ止めるための綱「踏絆（ふもだし）」であったからとか、あるいは「糞通し」という言葉に由来するなど諸説あるようです。

締めるのが褌であれ、それを腰に縛りつけていくのは帯紐であることには相違ありません。やはり「帯を締め直して」私たちの新たな信仰的戦いを始めたいです。

サッシュ（帯）

私は一昨年、正装として用いる赤紫色腰帯（サッシュ）を頂きました。身分を示すものの一つです。初めて身に着けた時は、特別な存在であるような気もしました。でも、ある小教区のミサに招かれた時、この帯の本当の意味を知らされたような気がしました。

その教会は、私のために司祭館から教会入口まで、国の要人やスターたちが特別な催しで歩く時用いていくレッドカーペットを敷いてくださっていたのです。私はもったいなくて、カーペットの上を歩くことができず、外側を歩きました。

でも、その時教えられた気がしたのです。「私はこの赤い絨毯の上を歩けるような特別な人間ではない。この私こそが、私の赤帯を道に敷いて、その上を人々に歩いてもらう、そのための赤帯であり、それが私に与えられた使命なんだ」

中世ヨーロッパでは、騎士や軍人たちの制服の一部であった肩帯がサッシュと呼ばれていました。彼らはサッシュで自分を引き締め、先頭に立って戦いの渦中に自らを投じていったのではないでしょうか。そしてそのことをこそ、自分の名誉とした人も多かったのではないでしょうか。

今でも、各国の要人や代表者たちも儀礼の時にはサッシュを付けることがあります。それは、威章として佩用（はいよう）するよりも、人々の先頭に立って人々を守り人々に奉仕する者としての証しであるはずです。

まず腹を引き締める

より良き奉仕のため締め直そうと帯を腹に巻いて思います。「出っ張ってきたなぁ。威張り出してきたなぁ」以前のズボンやベルトの穴では役に立たなくなっています。

帯締めのためには、腹の引き締めがまず大切なのかもしれません。

要らない脂肪が付いています。「肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです」（ガラ5・19－21）これらが私の腹の内です。この有様をパウロは端的に述べます。「こういう人々は、わたしたちの主であるキリストに仕えないで、自分の腹に仕えている」（ロマ16・18）もっと言うと「彼らは腹を神」（フィリ3・19）としている。自分を神として威張り腐っているこの私の腹をまずくくらなければなりません。

帯の正体とは

パウロによると私たちが身に着ける帯とは何であるかはっきりしています。「酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい」（ロマ13・13）「愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずな（帯）です」（コロ3・14）私たちが身に着けていく帯とは、愛であるイエス様のことです。イエス様がともにいてくださいます。イエス様が私の帯になってくださいます。でも、それだけではありません。

帯締めのお手本

「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい」イエス様は、そうおっしゃっただけではありません。その後すぐに次の言葉を付け加えられました。「主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる」（ルカ12・37）

私たちが「帯を締め直す」時に見えてくるのは、神さまの方が帯をして私たちに奉仕をしてくださっているということです。神さまこそが先陣を切って、この私たちのために戦い、私たちを守り養っておられます。この神さまに倣って、私たちの帯を締め直す時、忠実な僕としての生き方ができるのではないでしょうか。

毎日の生活の中で、例えば朝、ズボンのベルトを締める時、スカートをウエストに留める時、祭服のチングルムを縛る時、十字架や不思議のメダイのネックレスを着ける時など「私はキリストとともに今日出会う人に仕えていきます」と意識できる自分の帯を具体的に決め、あるいは作り、それを身に着けながら、人々に奉仕していく一日を始めてはいかがでしょうか。

締まりのない話となりました。あっ、しまった！

クルシリヨ事務局からのお知らせ

新たなスタートを願って

今後の運営について検討

1966年5月に長崎で開催されたクルシリヨは、令和を迎えた2019年5月に第142回が開催され、これまで累計4341名のクルシリスタが誕生しています。2016年には開催50周年を記念してクルシリスタの集まりであるウルトレヤを下五島、上五島、佐世保、平戸、長崎の県内各地で開催し、合計727名の参加者が、それぞれの置かれた場所で「最善を尽くし」福音を伝えていくことを誓い合いました。

2019年秋は教皇様の来崎ということでクルシリヨの開催を見送りましたが、その後、長崎の会場として使わせていただいていたイエズス会立山修道院が都合により使用できなくなり、また、新型コロナウイルスの蔓延と続いたため2019年秋よりクルシリヨは開催できていません。このままクルシリヨは終わってしまうのか？と心配される声も届いていますが、今後もクルシリヨを継続していくという意志は変わっていません。ただこのようなコロナ禍の中で、運営の形態は変わらざるを得なくなることも考えられます。引き続きクルシリヨ本部事務局で検討を重ねていきますので、もうしばらく時間をいただければと思います。

今回、各小教区の世話役の皆さまに掲示していただくようポスターを作成し、担当の中村倫明補佐司教様の心強いお言葉も掲載させていただきました。クルシリスタの皆さまには、それぞれの場所で新型コロナウイルスに苦しんでいる多くの方々のために、また、一日も早くクルシリヨが新たなスタートを切ることができるようにお祈りくださいますようお願いいたします。

クルシリヨ本部事務局

教皇フランシスコ 来日公式記録 DVD

POPE IN JAPAN 2019 すべてのいのちを守るため
～教皇フランシスコ 来日の軌跡～

2019年11月、ヨハネ・パウロ2世以来、38年ぶりに来日したローマ教皇フランシスコの4日間。その軌跡と言葉を後世に伝えるため、公式記録DVDが制作されました。

企画・制作著作：日本カトリック司教協議会／カトリック中央協議会
Disc 1：来日ドキュメンタリーほか（全103分）
Disc 2：教皇メッセージ集（全135分）

小教区や学校など、団体で取りまとめてのご注文も可能です。

1口6千円以上の献金につき1組を献呈。お申し込み終了は2021年2月末を予定しています（期間が変更される場合があります）。

郵便振替でお申し込みの場合は「通信欄」に送付先（住所、氏名、電話番号）と「DVD ○組希望」とお書きください（00120－7－410103　宗教法人カトリック中央協議会献金第一口）。

詳細はカトリック中央協議会の公式サイトをご確認ください。

平和の精神を伝えて
永井隆記念館　館長・徳三郎氏に聞く

原爆投下から75年となった昨年2020年。振り返ると、私たちの日常が新型コロナウイルスの影響下にある一方、平和を願い求める思いもいっそう深まるときになったと感じる。「平和を」―被爆し病床に伏しながらも平和を祈り、執筆活動を続けた永井隆博士の精神を伝える長崎市永井隆記念館の昨年はどのような一年であり、今年はどのような節目のときか。1月1日は世界平和の日。新年号発行にあたり、博士の孫、館長の永井徳三郎氏にお話をうかがった。

▲「平和を」書く永井隆博士（1908－1951）

被爆75年はどういう年だと感じましたか

本来なら活動も盛んでメモリアル的な年になったのだと思いますが、コロナの影響で制限がありました。ただ、静かな、だけれども熱く、目標に向かって活動する人々の姿勢は変わっていません。核兵器禁止条約の発効（1月22日）の決定など政治的な場でも前進が見られました。見方を変えると、コロナという全世界を襲った相手に一丸となって立ち向かうよいきっかけの時となった。自分や家族、身内、自分の国だけという狭い考えではなく、広く相手のことを思って毎日を過ごすのは平和の道につながるものです。

緊急事態宣言後の来館者数の変動は

4月中旬から休館し、6月に再開。来館者は通常の1、2割ほどでしたが、9月頃から修学旅行や団体が増え、実は11月は前年の同時期よりも多かったのです。GoToキャンペーンやNHK朝ドラ『エール』の反響なのか、「長崎の鐘」展も2020年いっぱい延長するなど、来館者が続きました。だけど外国人、特に諸外国からの訪問者の8割を占める韓国の方は2019年夏以降、日韓関係の影響で減少し、コロナでゼロに。向こうの人たちもはがゆい思いではないでしょうか。私たちも帰って来てほしい気持ちです。

2021年の予定は

永井（博士）の没後70年の節目であり、生誕100年の時のような何か楽しめるものをと思っています。人を集める行事は難しい状況ですが…。具体的に進んでいる事業は『長崎の鐘』英語版の再刊。英訳本は現在『この子を残して』だけなので、永井の原点でもある『長崎の鐘』の再刊を目指しています。日本語も抱き合わせにして1冊にまとめ、登場人物や語句の説明も付けて資料的な価値と意味合いも出したい。英語を学ぶ子が出てくるかもしれませんし、いろんな使われ方が期待できます。長崎如己の会（徳三郎氏は副理事長）を中心に準備を進めていて、今後協力をお願いしていく予定です。永井の一番の希望は自分の本が広く読まれることだと思うので、さまざまな国の方に読んでもらいたい。

また、原爆資料館や城山小学校と一緒に映像資料を作成し、ウェブで公開する予定もあります。

教皇様の来崎時のメッセージを一信徒としてどのように受けとめましたか

爆心地公園への招待を受けていましたが（ミサ会場の）ボランティアで行けず、教皇様のメッセージは後で聞きました。核兵器や戦争に関して明言された辛口の内容だったと思います。個人的には「すべてのいのちを守るため」という来日テーマが非常に印象的で、これに沿うお言葉だったと思いますし、最後に唱えられた「わたしを平和の道具に使ってください」という（アシジのフランシスコの）祈りを聞いて、あらためて「ああ、そうか」と思いました。最終的には一人ひとりの心の持ち方、隣人愛に尽きる気がします。人間の愛、神の愛、「愛」ということを伝えられたのではないでしょうか。

館長を務めて20年。感じている変化は

被爆70年、75年、昨今の一番の課題でもありますが、実体験のある人たちが亡くなっていくこと。私がここに入った頃は、話を聴ける方や永井と直接面識のある方も多くおられたんですけど、今は孫、ひ孫の時代。戦争や原爆を知らない人が増えたと本当に実感します。

来館者に伝えたいことは

永井が生きた時代に原爆が落とされるような戦争があった事実、生きざま、平和の精神を伝えたい。「如己愛人」「平和を」の言葉が示す通りです。少しでも心の片隅に残り、いつかそれが皆さんの人生の中で思いあたって平和への取り組みにつながるなら、隆も喜ぶと思います。

記念館は、今年3月31日まで長崎市民は観覧無料。

教区主催追悼ミサ

11月・死者の月にあたり、昨年11月15日（日）午後1時から長崎教区主催の追悼ミサが相浦教会で行われた。以前は毎年浦上教会で行われていたが各地区での開催が求められ、長崎三地区を経て、2020年は佐世保地区での開催となった。

追悼ミサは髙見三明大司教の司式により、亡くなられたすべての長崎教区民（聖職者、男女修道者、信徒）のためにささげられた。新型コロナウイルスの影響を受け、3密を避けるため、佐世保地区の14小教区から5人の参加のみが許された。2人の司教、地区の司祭団、修道女、信徒は、先に召された全教区民の永遠の安息を共に祈った。

髙見大司教は説教の中で、「永遠のいのちとは死んでからのいのちではなく、この世で既に始まっており、死者のために祈ることは死者を愛することだ」と語った。

幼きイエズスのテレジア　秋月壽賀子（すがこ）さん（浦上教会所属）

昨年11月19日、老衰のため長崎市の聖フランシスコ病院で逝去。102歳。

看護師として働いていた、爆心地から約1.4キロの浦上第一病院（現聖フランシスコ病院）で被爆。のちに夫となる医師の秋月辰一郎氏（2005年死去）と共に被爆者救護にあたり、その後も長崎の平和運動に奔走する夫を支え続けた。戦後、聖公会からカトリックに改宗。1992年、辰一郎氏が病で倒れ、13年間病院で療養していた時は、看護をしながら多くの俳句を詠んだという。

「昏睡の夫よ醒めませ小鳥来る」（秋月すが子）

戦後65年の2010年、本紙のインタビューに対し、「皆さんが一生懸命いろいろと活動なさっています。しかし、世界のどこかで戦争はあっています。どうしてなくならないのでしょうか、人間の罪でしょうか。…8月9日、こんな日が二度とあってはなりません。戦争は絶対にあってはなりません」と語っていた。

2017年から恵の丘長崎原爆ホームに入所していた。

二〇二一年 謹賀新年

大司教　髙見　三明(48)
補佐司教　中村　倫明(32)

長崎大司教区

下川　英利(60)長崎市
山内　豊(60)平戸市
山内　清海(59)大司教館
下村　徹(58)原爆ホーム本館
村中　司(58)長崎市
峰　徳美(58)〃
三村　誠一(57)大山
平野　勇(57)鹿子前
野下　千年(57)センター
堤　好治(57)聖マルコ園
宮川　俊行(57)ケアハウスかおり
小島　栄(56)大司教館
萩原　劭(54)お告げ本部
川上　忠秋(53)大司教館
片岡　久司(53)〃
川口　清(52)五島市
濱﨑　靖彦(52)神崎
長谷　功(52)聖マルコ園
橋本　勲(51)センター
山川　忠(51)大村市
下口　勲(48)大浦
大山　繁(47)黒島
松下　光男(45)上神崎
小瀬良　明(45)稲佐
村川　昌彦(44)八幡町
山内　実(43)相浦
諸岡　清美(43)大浦天主堂司祭館
岩村　知彦(39)飽の浦
烏山　邦夫(39)馬込
古巣　馨(39)大司教館
山脇　守(38)滑石
山田　聡(37)島原
中村　満(36)福江、浜脇、井持浦
岩崎　康彦(36)佐々
川内　和則(35)鯛之浦
久志利津男(35)浦上
髙野　治(35)大野
下山　盛朗(34)出津
鳥瀬　文武(34)青砂ヶ浦
牧山　強美(32)大神学院
福島　光明(31)植松
眞浦　健吾(31)青方、丸尾
中濱　敬司(31)センター
紙﨑　新一(30)浅子
平本　義和(30)長与
葛嶋　秀信(30)中町
中濱　繁喜(30)西木場
鍋内　正志(29)平戸口
山村　憲一(29)平戸
岩崎　晋吾(28)諫早
下窄　英知(28)大分
中田　輝次(28)田平
湯浅　俊治(26)大神学院
浅田　照明(26)太田尾
大水　文隆(26)中央協議会
辻原　達也(25)小ヶ倉
川原　拓也(25)桐
松田　聡史(24)小神学院
山本　一郎(23)木鉢
嘉松　宏樹(23)大神学院
中島　誠志(23)三浦町、天神
山田　良秋(22)三ツ山
川口　昭人(22)水主町
一ノ瀬輝幸(22)早岐
岡　秋美(22)時津
熊川　幸徳(21)大神学院
大瀬良直人(21)三井楽、貝津
竹内　英次(20)福岡・二日市
岩本　繁幸(19)センター
尾髙　修一(19)浦上
川原　昭如(19)宝亀
葛島　輝義(18)浦上
工藤　秀晃(18)浦頭
鶴﨑　伸也(18)神ノ島
竹谷　誠(17)大曽
前田　達也(17)大司教館
本田　靖彦(17)黒崎
岩下　和樹(15)大崎
山口竜太郎(15)小神学院
鶴巻　健二(15)木鉢（小瀬戸）
汐留　義和(14)浜串
熊谷　裕司(14)水ノ浦
谷脇誠一郎(13)俵町
山添　克明(12)曽根
野濱　達也(12)真手ノ浦
岩下　裕志(11)山田
中尾　直通(10)深堀
大水　満(8)褥崎
中野健一郎(7)大司教館
川端　志範(6)土井ノ浦
小島　明(5)奈留
稲田　伸也(5)イタリア
山内　啓輔(4)〃
下原　和希(3)仲知
キム・ボム(2)福江
宮原　大地(1)浦上
青田　憲司(新)滑石
稲田　祐馬(新)福江

修道会など

●イエズス会
泉　類治(57)日本二十六聖人修道院
ドメニコ・ヴィタリ(50)日本二十六聖人記念館
キム・ヒョンウク(5)日本二十六聖人修道院

●コンベンツアル聖フランシスコ修道会
濱田　盛雄(61)湯江
西山　達也(60)湯江修道院
萩原栄三郎(56)小長井修道院
山内　春治(56)湯江修道院
瀧　憲志(55)〃
﨑濵　宏美(53)東長崎
水浦　征男(52)聖母の騎士修道院
西田　正(45)東長崎
山下　公輝(42)湯江
大野　幹夫(38)聖母の騎士修道院
キム・ヒーイル(25)〃
山口　雅稔(16)本河内
李　信衡(9)聖コルベ志願院

●聖アウグスチノ修道会
今田　昌樹(27)城山
平野　哲也(27)〃
チャーリー・バヌエボ・ポムセノ(10)〃
松尾　太(3)〃

●レデンプトール会
瀬戸　高志(26)愛宕

●フランシスコ会
片岡　仁志(58)長崎修道院
クラウディオ・ジャネシン(52)本原
関口　七郎(44)センター
アルベルト・マーフィル(31)長崎修道院
松本　巌(24)〃
古里慶史郎(19)〃
ベラルド・ヤン(17)〃

●神言修道会
川上　栄光(47)西町
ホセ・リザル・マダンバ・サントス(46)西町
永山　誠(41)長崎修道院
濵口　末明(41)紐差
西　経一(37)長崎修道院
スタニスワヴ・ポウォムスキ(35)西町
ティブルティウス・ヘリ(22)聖ルドヴィコ修院
ネルソン・アブライ・バルバロナ(6)西町
ヨセフ・ホー・ショウフェン(6)〃
荒田　啓示(1)聖ルドヴィコ修院

●マリア会
坪光　正躬(49)海星修道院
末吉　克久(48)〃

●サレジオ修道会
西本　裕一(23)イエスのカリタス牧野修道院
前田　崇史(17)愛野

●韓国殉教福者聖職修道会
キム・ドンウク(10)香焼
カン・デフン(9)〃

●オプス・デイ
木村　昌平(17)長崎
硲　恵介(7)〃

（　）内は叙階年数

キリストの証し人に

各地で堅信式 行われる

上五島地区

昨年11月8日（日）上五島地区の合同堅信式が青方教会で行われた。現在は新型コロナウイルスの影響下にあり、3密を避けるため参加者を制限しながらの式となった。

今回は中学生23人（小教区ごとの人数…桐5、真手ノ浦1、鯛之浦4、土井ノ浦1、大曽3、丸尾2、青砂ヶ浦6、仲知1）が受堅。ミサの中で髙見三明大司教は、堅信の意味について話し、キリストの証人として生きるよう励ました。

参列者は「上五島地区も少子化の影響は否めませんが、今年も中学生の皆さんが堅信のお恵みをいただきました。子どもたちは卒業したら、ほとんどが島を離れることでしょう。この日をいつまでも忘れずに、キリストの証し人として社会の中で生きてほしいと思います」と話していた。

長崎カトリック神学院

11月8日（日）中村倫明司教を迎え、長崎カトリック神学院で堅信式が行われた。中学2年生2人、中学3年生2人が堅信の恵みをいただいた。

聖堂は、在校生とそれぞれの保護者・代親の温かい祈りに包まれた。受堅者の1人、岩永剣世神学生は参列者に感謝の言葉を述べ、「これからも司祭を目指して、今日いただいたお恵みを励みに精いっぱい歩んでいきたい」と力強く語った。

小神学院での堅信式は、人数の減少に伴い2年に一度、2学年一緒に行われる。

受堅者は次の通り。

【中3】岩永剣世（神ノ島教会）山下飛翼（黒崎教会）

【中2】安部純（宮崎教会）大口暖翔（浦上教会）

長崎南地区

11月29日（日）14時から本河内教会で長崎南地区の合同堅信式が行われた。新型コロナウイルス感染予防のため、参加者は制限され、歌う聖歌も限定された。

髙見三明大司教は説教の中で「信仰は意味のないものなどではなく、むしろ信仰こそが人生に意味を与えるものであり、なぜ学ぶのか、なぜ生きるのかという問いに答えを与えるものです」と語り掛け、受堅者たちが主体的に信仰と愛を生きる者となるよう励ました。

受堅者を代表して本河内教会の岩本賢菜さん（中学2年）は、「新型コロナウイルスの影響で、多くの教会行事が取りやめとなる中、無事にこの日を迎えることができて、安堵と感謝の気持ちでいっぱいです」と語り、教会の一員として新たな一歩を踏み出す決意と喜びを表現した。

受堅者は中学生33、高校生2、大人13の計48人。小教区ごとの人数は次の通り。愛宕 中学生1・高校生1・大人1、大浦 中学生3・大人1、大山 中学生5・大人1、神ノ島5、木鉢 中学生7・高校生1・大人4、小ヶ倉3、香焼3、中町 中学生4・大人6、本河内1、深堀1。

秋の叙勲受章

水浦ヨシ子さん（瑞宝単光章）

2020年秋の叙勲が昨年11月3日付で発表され、公共の仕事などに長年従事し成果を挙げた人に贈られる「瑞宝章」を、長崎市の水浦ヨシ子さん（79歳、浦上教会所属）が受章した。

水浦さんは、57年間にわたり教育・保育の分野で尽力し、現在も長崎市内にある幼保連携型認定こども園で園長を務めている。「高校3年のとき純心学園で洗礼を受け、カトリック信者として生きてきました。多くの出会いに感謝しつつ、これからも力を尽くしていきたいと思います」と語った。

神学院などに援助物資

平戸地区評議会 届ける

11月22日（日）午前11時頃、平戸地区評議会の役員が長崎カトリック神学院を訪れ、神学生らのために同地区で集めた援助物資（お米・野菜・日用品など）と寄付金を届けた。当日は10時から神学院で「召命祈願ミサ」も行われており、物資は、ミサに参列していた聖母の騎士、純心聖母会、お告げのマリア修道会の志願生たちにも贈られた。

短信

〈神学生養成援助献金〉

教区評議会女性部は昨年11月28日（土）10時、役員7人が担当司祭の鶴崎伸也師と共に長崎大司教館を訪れ、神学生養成援助のための献金757万5984円の小切手を髙見三明大司教に手渡した。大司教と役員らは、女性部の日頃の活動や役割などに関して意見を交わし、懇談した。この献金は1977年に長崎地区連合婦人会によって始められ、その後、教区連合婦人会（現在の教区評議会女性部）発足に伴い、教区レベルの活動として引き継がれている。

感謝

―寄付―

●長崎カトリック神学院

●平戸地区評議会様

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●横川新路様（出津）故マリア横川ヨシ様

●浜田鈴子様（小ヶ倉）故ペトロ岩崎幸好様（高島）

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

みことばにふれて 176

シスター 江口 しの（お告げのマリア修道会、ローマ在住）

「それぞれの力に応じて」（マタイ25・14～30）

〝力〟と聞いて何が思い浮かびますか？生きる力、能力、語彙力、底力、などさまざまな力が思い浮かびます。必ず○○力、とか力を持つなど修飾される形で思い浮かぶのではないでしょうか。このタラントンのたとえ話では僕（しもべ）たちそれぞれの力に応じて主人が財産を預けています。〝力〟というだけでは何を表しているのか分かりませんが、私たち皆が主人から必ず財産を預けられています。

日常の中で力を感じるのはどんな時でしょうか。私自身の身近な体験で言えば現在イタリア、ローマにおいて勉強をしていますので、例えば試験の結果がそれをはっきりと提示し、他にも去年は何時間もかけて読んでいた教科書が今年は短い時間で読めるようになっていて、確実に読解力が身についたと感じることができています。考えてみると全くイタリア語ができないゼロからのスタートだったからこそ、私にも語彙力や読解力があったのかと多言語への可能性が広がる気づきになりました。声に出して読むことも難しくてただどしい音読をしていたのに、だいぶ上達して修道院のミサで朗読もするようになりました。しかし、読む力があっても何かを読まなければその力は発揮されません。力を持っていたとしても使わなければ文字通り宝の持ち腐れです。

力とは所有するだけでなく使う存在があってこそ意味を持つものだと思います。そしてそれが発揮されるために日々与えられているものがあるでしょう。持っていることに気づかないまま使っていることもあるでしょう。あるいは、持っているのにまるで持っていないかのようにふるまってしまうこともあるでしょう。一日の終わりに、何か成果を感じることもあれば、疲れただけで何も得なかったように感じることもあるでしょう。「こんなことできない」「自分には能力がない」と嘆くこともあるかもしれません。しかし、必ず私たちにはそれぞれの力に応じて与えられているものがあります。

まずは、一日を振り返ってみて、自分に与えられていると気づいて使うことのできた力、発揮できた力、気づいてはいなかったが実りをいただいたことで知ることができた力、まだ結果を知らないが何かをしている時に湧き出る力、などを見つけていくことができたらと思います。

新刊良書

★聖体の秘跡　ご聖体を受ける意味を知る

企画＝「カトリック生活」編集部

カトリック教会のミサにおける聖体とは、聖変化とはなにか。聖体の歴史やQ&Aなどを収載し、聖体の秘跡を分かりやすく紹介する。初聖体や洗礼を受ける方をはじめ、聖体を受ける意味を深めたい方へおすすめの小冊子。ドン・ボスコ社、税別300円。

〝被爆75年から5年間のチャレンジ〟

https://nuclear-free.net/

核なき世界基金

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175

医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

CALIS Catholic Life Service

カリス通信 No.11

カトリック生徒総合補償制度のご紹介

カリスでは、カトリック学校の児童や生徒のケガ等を補償する「カトリック生徒総合補償制度」を複数のカトリック学校でご案内しております。児童や生徒の学校施設内や通学中に限らず24時間補償します。ご案内方法は、保護者の皆様にパンフレットを配布し、任意でご加入いただく制度になります。今回は、「カトリック生徒総合補償制度」の補償内容についてご紹介いたします。

〈補償内容〉

●児童・生徒本人のケガの補償
児童や生徒本人が、急激かつ偶然な外来の事故で、①通院されたとき、②入院されたとき、③手術されたとき、④後遺障害が生じたとき、⑤亡くなられたとき、所定の保険金をお支払いします。海外旅行中のケガ、地震・噴火・津波によるケガ、熱中症、細菌性食中毒（O157等）、特定感染症（SARS、鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス等）も補償します。

●児童・生徒本人の病気による入院補償
児童や生徒本人が、病気を被り1泊2日以上の入院をされたとき、所定の保険金をお支払いします。

●他人にケガをさせてしまった、他人のものを壊してしまった場合の補償
児童や生徒本人に加え、ご家族の日常生活での偶然な事故により万が一国内外で他人にケガをさせたり、他人のものを壊したことにより生じる、法律上の損害賠償責任を補償します。昨今の自転車条例（保険加入義務）にも対応できます。

●児童・生徒が外出時に偶然な事故で携行品を壊してしまった場合の補償
住宅外において児童や生徒の持ち物（携行品）が偶然な事故により破損したり、盗難にあったりして、損害を受けた場合にお支払いします。

本制度は、カリスと契約をしたカトリック学校を対象に、入学手続き書類への同封や入学手続き説明会時にパンフレットを配布するという形で保護者の皆様にご案内しております。

大切な児童や生徒をお守りする本制度を是非ご利用ください。

私たちが、お守りいたします。
三條貴英　毛利玲子　杉谷英一
服部秀昭　大水文隆神父（顧問）

カトリック共済システム 有限会社 カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館 TEL：03-5632-4449 FAX：03-5632-4468
連絡先 0120-77-0033 www.calis.co.jp/ 19-TC03966
リスク・補償に関して何なりとお気軽にお問い合わせください